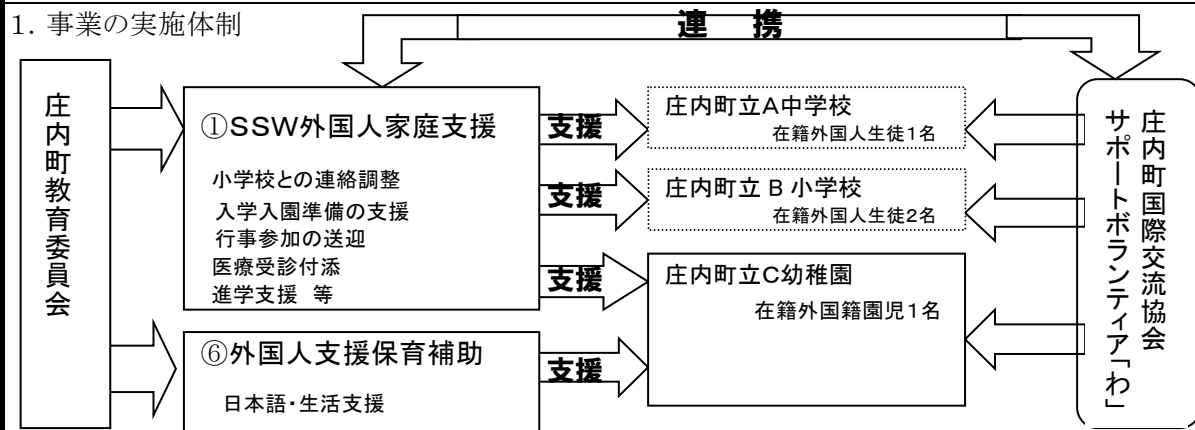


令和4年度 帰国・外国人児童生徒等教育の推進支援事業
(Ⅱ 外国人の子供の就学促進事業)
事業内容報告書の概要

都道府県・市区町村・協議会名【 庄内町 】

令和4年度に実施した取組の内容及び成果と課題

1. 事業の実施体制



2. 具体の取組内容 ※取り組んだ実施事項①～⑥について、それぞれ記入すること

①不就学等の外国人の子供に係る学校等との連絡調整

- ・町任用SSWが外国人家庭支援として活動した。町立余目第二幼稚園を中心に、余目第二小学校、関係園児の家庭等に派遣。在籍外国人園児の通園支援と、小学校入学に向けた連絡調整や家庭支援を行った。
- ・小学校と家庭とをつないで、入学準備、必要物品の調達、通学のサポート、医療受診の送迎、園と家庭、関係機関やボランティアとの連絡、園と小学校との連絡等の支援をきめ細かに行った。保護者は特に女兒の就学に対して積極的ではないため、入学後不適応があると、継続した就学につながらない恐れがあったが、きめ細かな支援のおかげで順調に通学している。

⑥不就学の外国人の子供を就学につなぐための幼稚園在園児への日本語支援と生活支援

- ・保育補助員1名(6時間×194日)を幼稚園に配置し、外国人の子供に対して、幼稚園内で日本語支援及び家庭との連絡を含めた生活支援を行った。幼稚園に在籍するパキスタン人男児の支援を行った。
- ・昨年度の経験があったため、日本語や集団での生活に少しは慣れてきているが、食事や文化面での違いがあるため支援が必要であった。また、保護者が就学に対して積極的ではないため、この1年で不適応があると小学校に入学しない恐れもあったが、SSWと連携して支援した結果、小学校に入学する見込みとなった。

3. 成果と課題 ※取り組んだ実施事項①～⑥について、それぞれ記入すること

①について ・外国人園児1名が、遠足、水泳、運動会等の行事にも参加し、関わりの中で、豊かな体験をすることができた。

⑥について ・不適応等を起こさず無事に1年間園生活を継続でき、日本語や集団生活に慣れることができた。

以上の結果として、令和5年4月から、外国人就学児が小学校に確実に入学できる見込みとなった。

【課題】幼稚園に関わる支援が予想以上に必要であり、中学生以上の支援は、①の範囲ではできなかった。

	3～6歳	7～12歳	13～15歳	16～18歳以上 (過年齢)
本事業で対応した子供の数	1人	2人	1人	2人

4. その他(今後の取組等)

令和5年度は、令和4年度から入学する児童が小学校生活に慣れ、順調に学校生活を送ることができるように、また、小学校2年生となる児童の就学が継続できるように小学校と家庭の支援を継続する。

- ※ 枠は適宜広げること。(複数ページになっても差し支えない。) 成果物等があれば別途提出すること。
- ※ 事業内容報告書の概要は、担当者・連絡先欄を除き文部科学省ホームページで公開する。